

平成28年度全国学力・学習状況調査

貝塚市の結果

貝塚市教育委員会

平成28年度 全国学力・学習状況調査 貝塚市の結果 目次

I. 調査の概要	P 1
II. 結果の概要について	P 1
(1) 領域・問題別の正答の状況と課題について（小学校）	P 2
(2) 領域・問題別の正答の状況と課題について（中学校）	P 3
III. 基本的な生活習慣等について（児童生徒質問紙調査より）	P 5
IV. 今後に向けて	P 12

平成28年度 全国学力・学習状況調査 貝塚の結果

4月19日に文部科学省により全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に「平成28年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。

貝塚市教育委員会は、この分析結果を保護者や地域の方々と共有し、今後の本市の教育施策や学校の取組みに活かすことにより、本市の教育を一層充実させて参ります。

なお、この学力調査により、測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を表すものです。

I 調査の概要について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 対象学年 小学校及び支援学校小学部 第6学年、中学校及び支援学校中学部第3学年

(3) 調査内容

- ①教科に関する調査（国語・算数・数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A、数学A）
 - ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数B、数学B）
- ②質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

(4) 実施日 平成28年4月19日（火）

II 結果の概要について

小学校

(%)

	区分	貝塚市	大阪府	全国
国語	A	68.3	71.3	72.9
	B	53.8	55.4	57.8
算数	A	75.0	76.9	77.6
	B	44.5	45.8	47.2

中学校

(%)

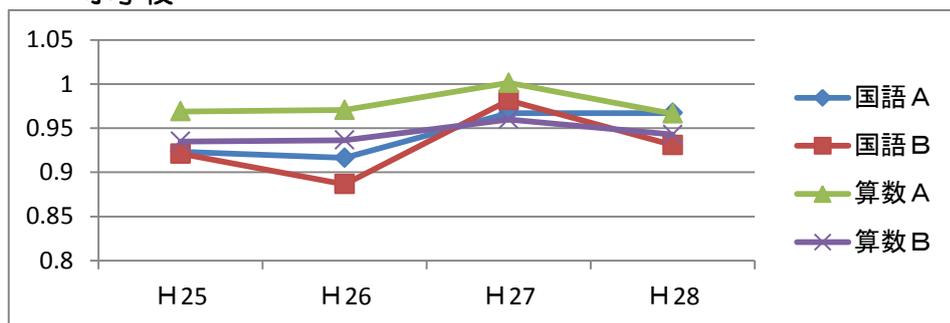
	区分	貝塚市	大阪府	全国
国語	A	71.7	73.5	75.6
	B	61.9	63.3	66.5
数学	A	59.1	61.7	62.2
	B	41.3	43.1	44.1

※「貝塚市」、「大阪府」、「全国」としているのは、貝塚市内公立学校・大阪府内公立学校・全国の公立学校の平均正答率（%）を表しています。

教科・区分別正答率比較/対全国比経年比較

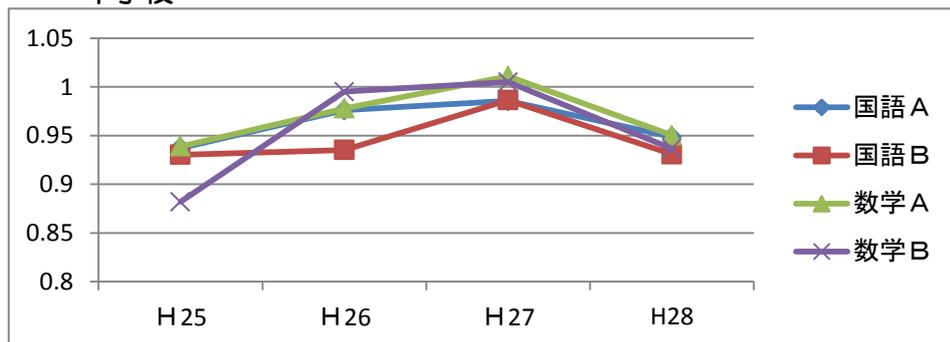
貝塚市の平均正答率を全国の平均正答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

小学校



全ての教科・区分で、平均正答率が、全国と比べて約1ポイント下回っています。

中学校

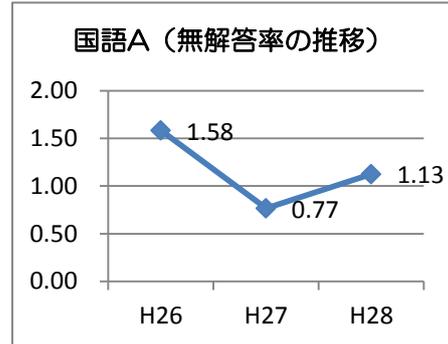
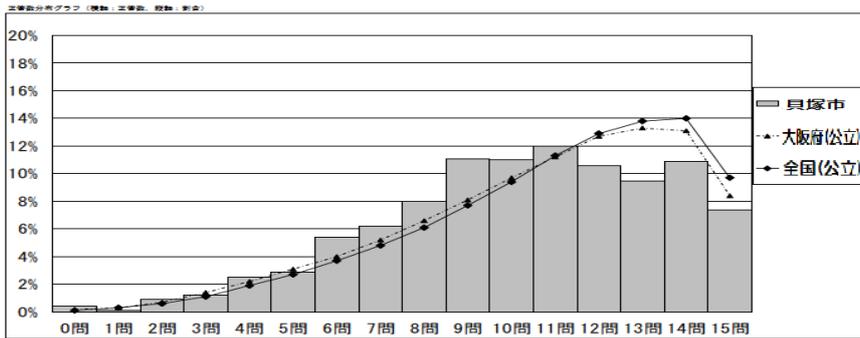


全ての教科・区分で、平均正答率が、全国と比べて約1ポイント下回っています。

(1) 領域・問題別の正答の状況と課題について (小学校)

国語A

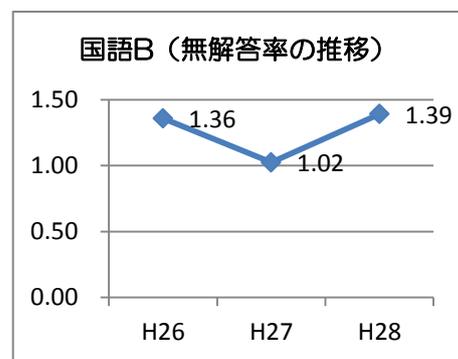
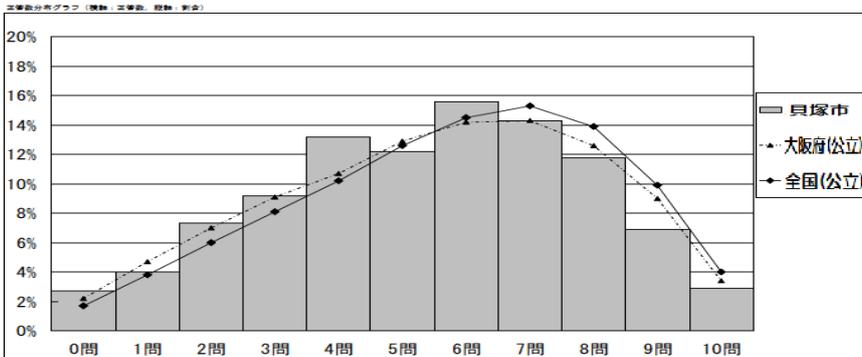
貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を
経年比較で示しました。全国が「1」です。



- 国語Aでは、大阪府平均(以降、府平均と記します)を3ポイント、全国平均(以降、国平均と記します)を4.6ポイント下回りました。今回出題された中で、濁音や促音を含む平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと、拗音を含んだローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題が見受けられます。
- 無解答率は、国とほぼ同じでした。

貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を
経年比較で示しました。全国が「1」です。

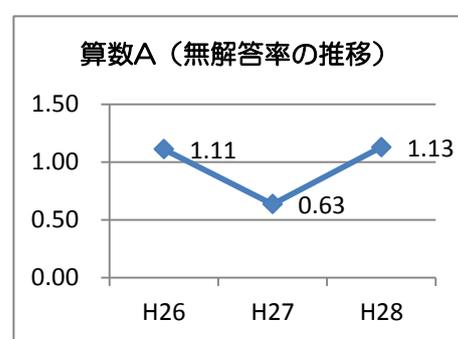
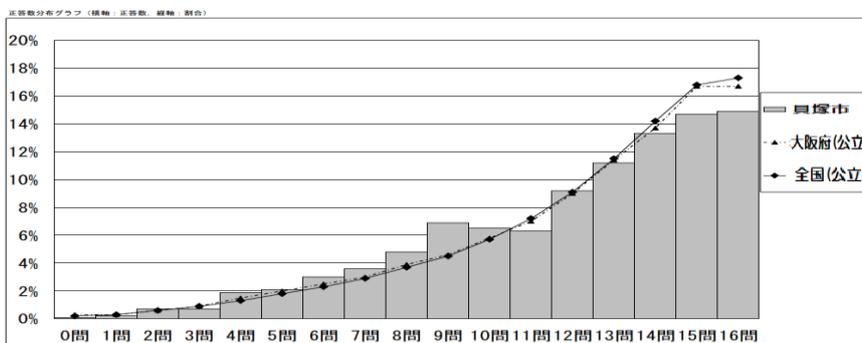
国語B



- 国語Bでは、府平均を1.6ポイント、国平均を4ポイント下回りました。今回出題された中で、目的に応じて、質問したいことを整理したり、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問したりすることに課題が見受けられます。
- 無解答率は、昨年より高く、国との差は、約0.4ポイントあります。無解答率が高かった問題は、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことでした。

貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を
経年比較で示しました。全国が「1」です。

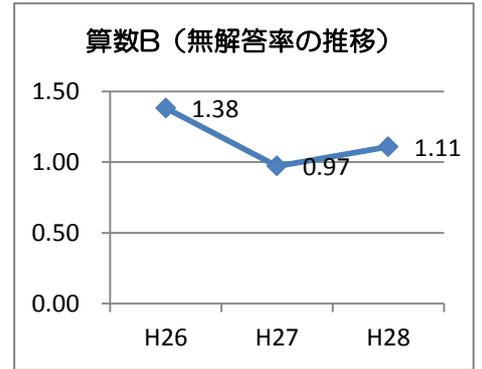
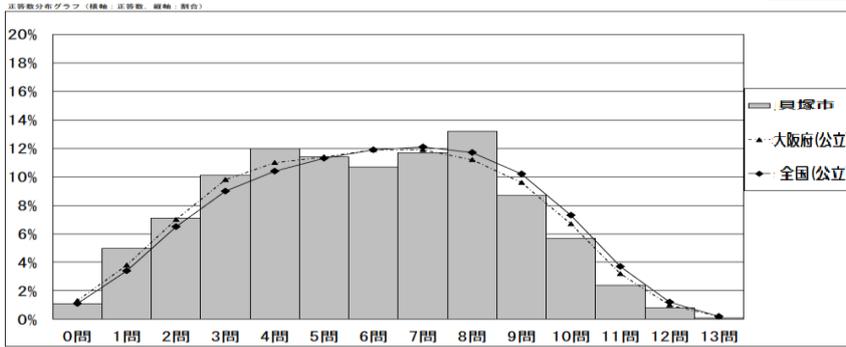
算数A



- 算数Aでは、府平均を1.9ポイント、国平均を2.6ポイント下回りました。今回出題された中で、1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係や除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことや除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることの理解に課題が見受けられます。
- 無解答率は、国とほぼ同じでした。

算数B

貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を
経年比較で示しました。全国が「1」です。

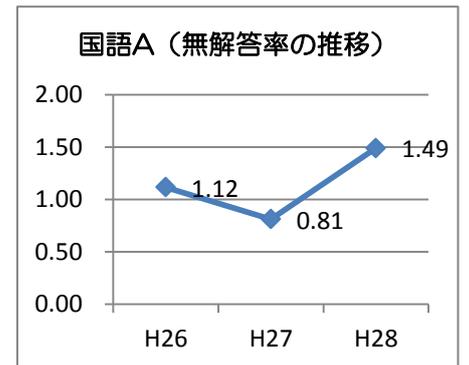
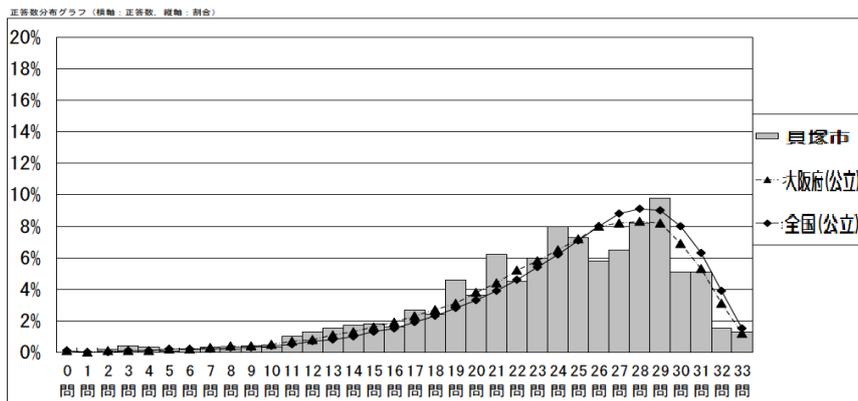


- 算数Bでは、府平均を1.3ポイント、国平均を2.7ポイント下回りました。今回出題された中で示された式の中の数値の意味を理解し、それを記述したり、示された除法の式を並べてできた形と関連づけ、角の大きさを基に式の意味の説明を記述することに課題が見受けられます。
- 無解答率は、国とほぼ同じでした。

(2) 領域・問題別の正答の状況と課題について (中学校)

国語A

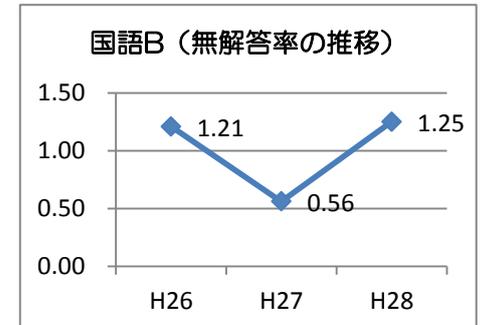
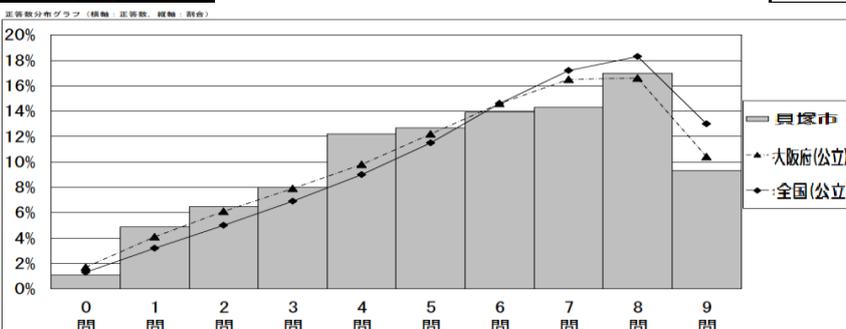
貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を
経年比較で示しました。全国が「1」です。



- 国語Aでは、府平均を1.8ポイント、国平均を3.9ポイント下回りました。今回出題された中で、文脈に即して漢字を正しく書いたり、文字の形や大きさ、配列に注意して書いたりすることに課題が見受けられます。
- 無解答率は経年比較の中で、最も高く、国との差は約0.5ポイントでした。

国語B

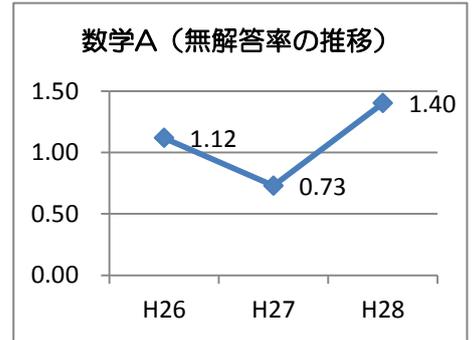
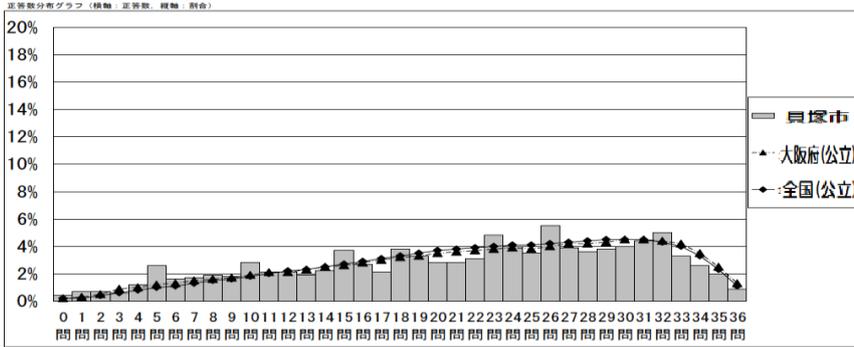
貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を
経年比較で示しました。全国が「1」です。



- 国語Bでは、府平均を1.4ポイント、国平均を4.6ポイント下回りました。今回出題された中で、課題を決め、それに応じた情報の収集や本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見受けられます。
- 無解答率は、国との差は約0.25ポイントでした。

数学A

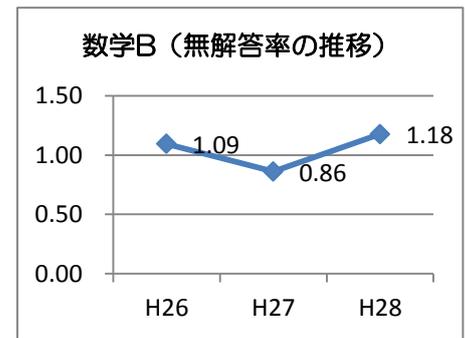
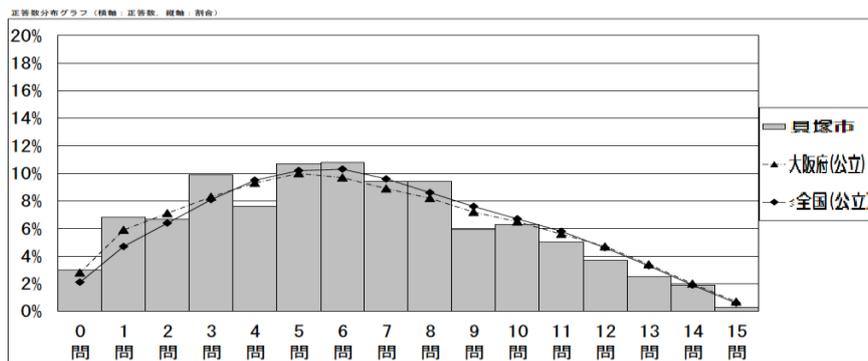
貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を
経年比較で示しました。全国が「1」です。



- 数学Aでは、府平均を2.6ポイント、国平均を3.1ポイント下回りました。今回出題された中で、垂線の作図の方法についての理解や、数量の関係を文字式に表すことに課題が見受けられます。
- 無解答率は経年比較の中で最も高く、国との差は約0.4ポイントでした。

数学B

貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を
経年比較で示しました。全国が「1」です。

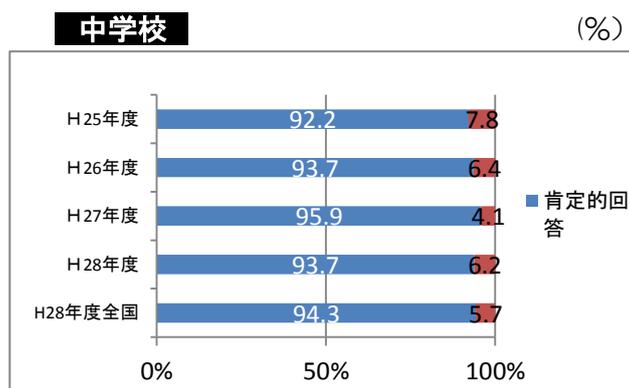
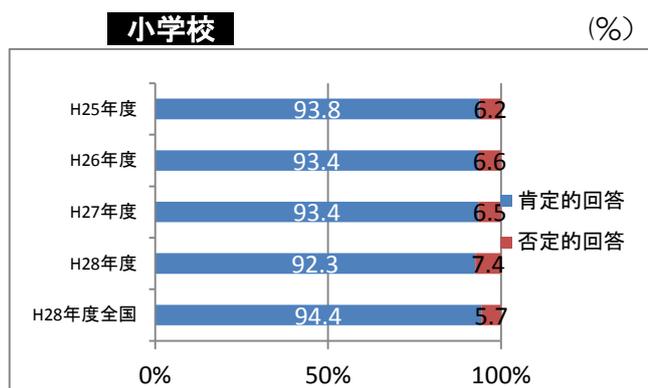


- 数学Bでは、府平均を1.8ポイント、国平均を2.8ポイント下回りました。今回出題された中で、前提となる条件が不足している場合に、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することや、数学的に表現したり、説明することに課題が見受けられます。
- 無解答率は、国との差は約0.2ポイントでした。

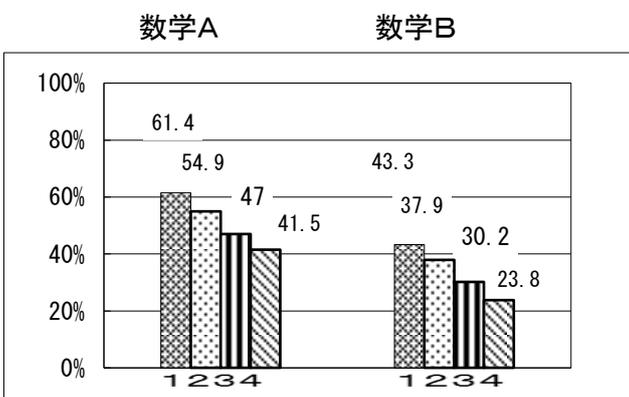
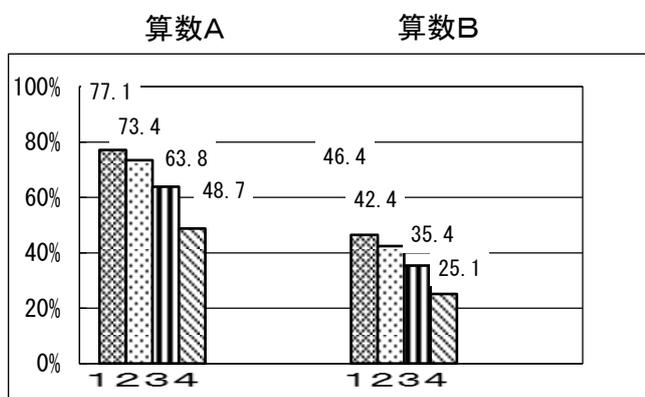
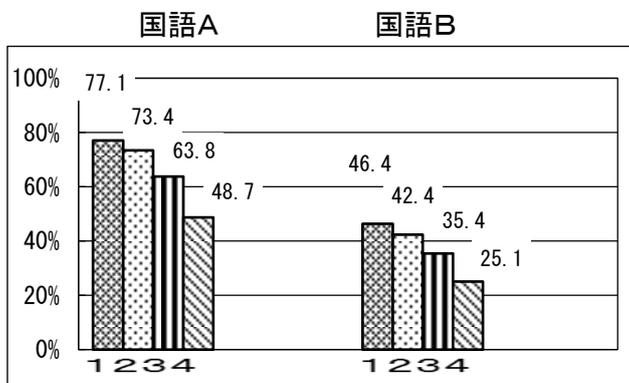
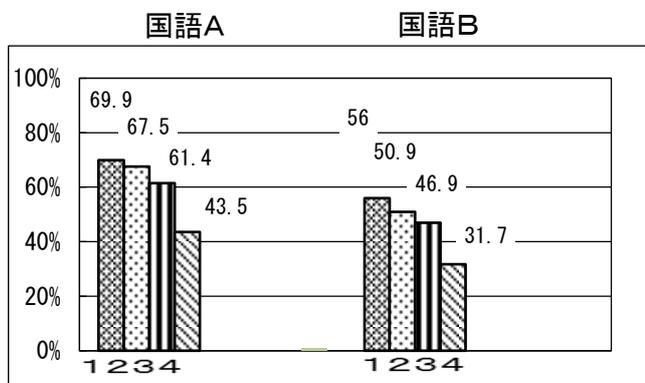
Ⅲ 基本的な生活習慣等について（児童生徒質問紙調査より）

児童生徒質問紙調査の経年比較と今年度の児童生徒と学力の相関関係について分析しました。

1. 質問項目「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」



1.当てはまる 2.どちらかといえば当てはまる 3.どちらかといえば当てはまらない 4.当てはまらない
とそれぞれ回答した児童生徒の平均正答率

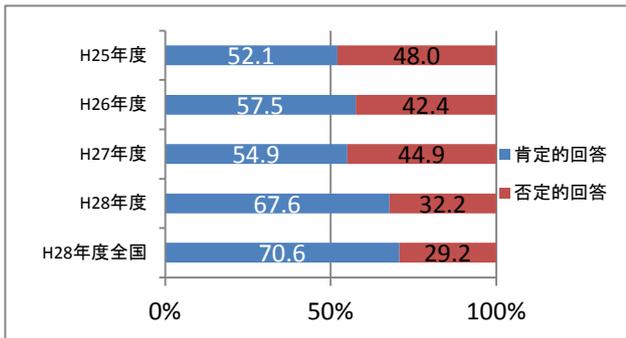


「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の質問項目で、肯定的回答をした児童生徒（1.当てはまる2.どちらかといえば当てはまる）と、否定的回答（3.どちらかといえば当てはまらない4.当てはまらない）をした児童生徒の経年比較をあらわしました。小・中ともに、毎年9割の子どもたちが、肯定的回答を示しています。このグラフは、回答別の平均正答率を比較したグラフです。肯定的回答（1・2）の児童生徒の平均正答率は、否定的回答（3・4）の児童生徒に比べて正答率が高くなっています。これからも、「ものごとを最後までやり遂げてうれしい」という自己効力感を学校・家庭・地域で大切に育んでいきます。

2. 質問項目「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」

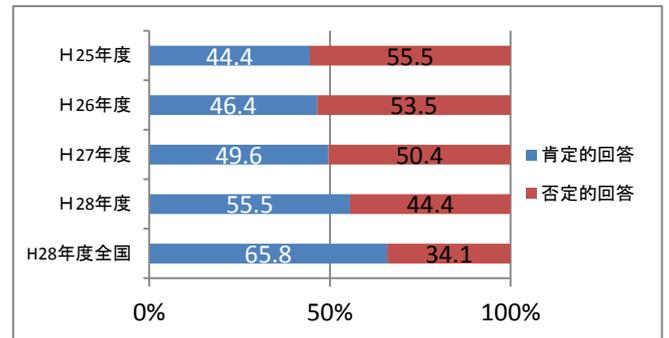
小学校

(%)



中学校

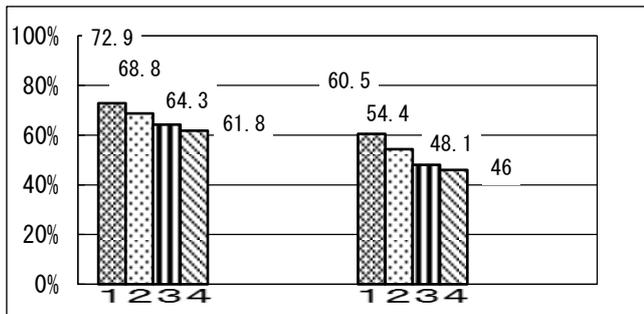
(%)



1.当てはまる 2.どちらかといえば当てはまる 3.どちらかといえば当てはまらない 4.当てはまらない
とそれぞれ回答した児童生徒の平均正答率

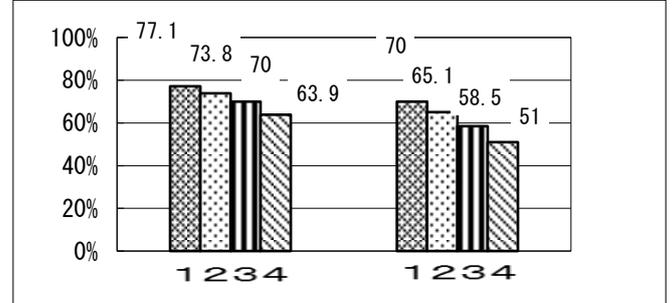
国語A

国語B



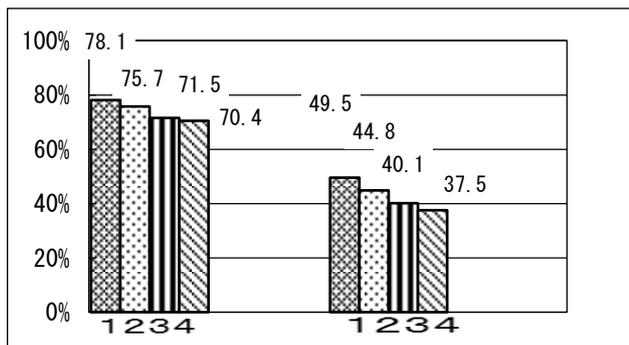
国語A

国語B



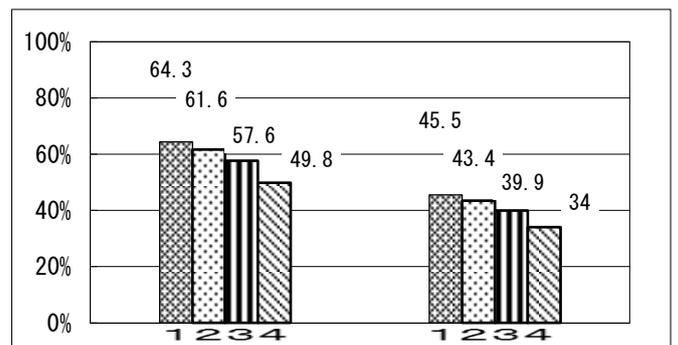
算数A

算数B



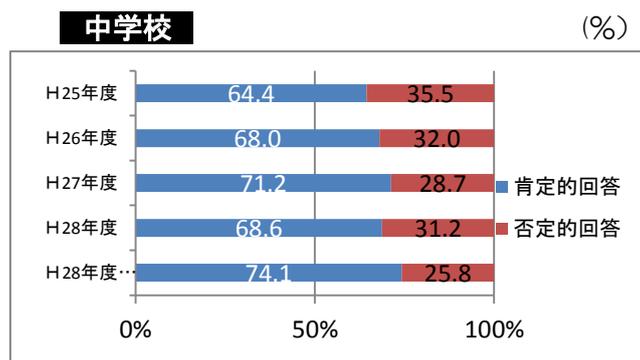
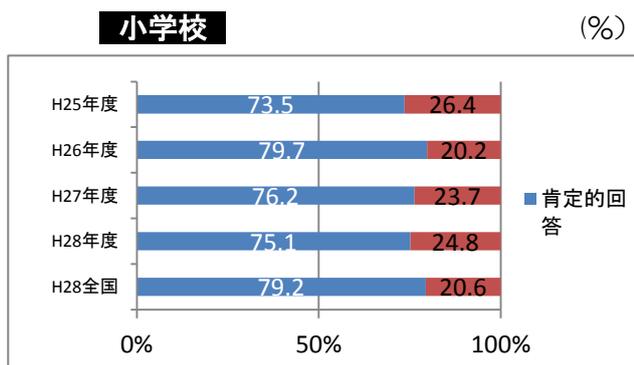
数学A

数学B

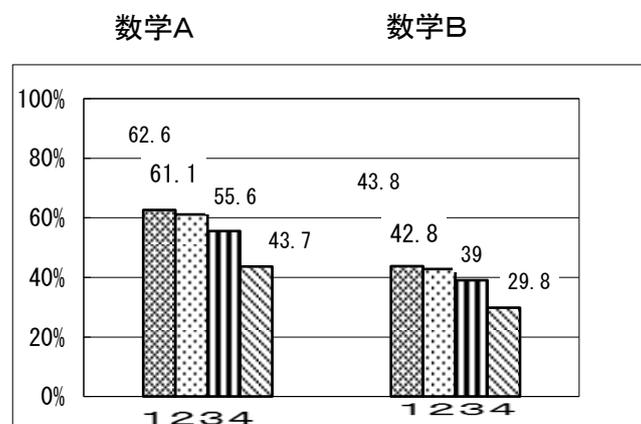
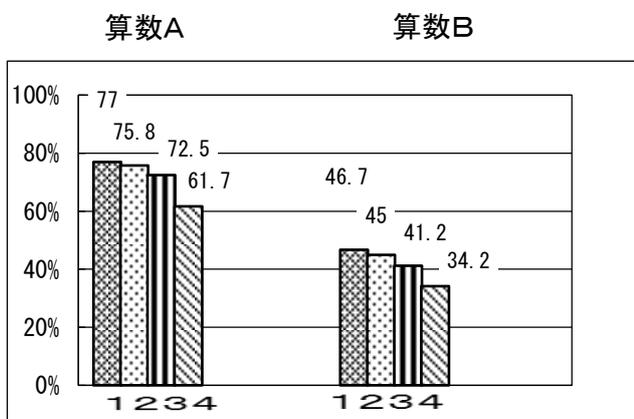
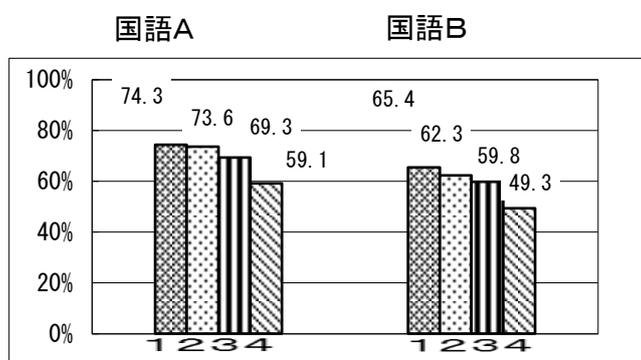
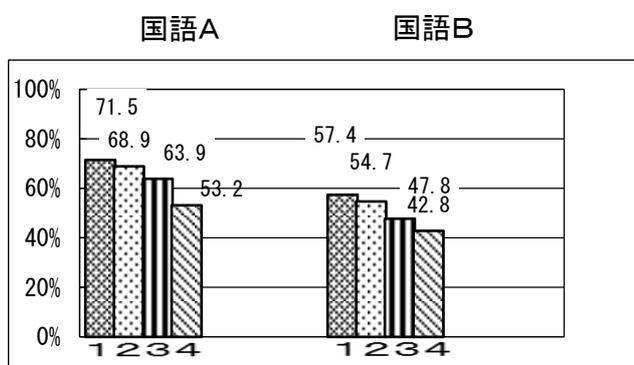


「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と肯定的回答（1・2）をした児童生徒の割合は、小学校では68%、中学校では56%で、昨年より伸びがみられます。質問項目と学力の相関関係をみると、全ての教科・区分で肯定的回答（1・2）をした児童生徒の平均正答率は、否定的回答（3・4）の児童生徒に比べて平均正答率が高くなっています。3年前（H25年度）に同じ質問項目で肯定的回答をした子どもは、52.1%でしたが、今年（H28年度）は、55.5%と約3ポイント高くなっています。このことから、社会への関心が高まっていることがうかがえます。これからも、社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究したり、社会的事象から課題を見いだしたり、多面的・多角的に考察できる力を育てていきます。

3. 質問項目「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」

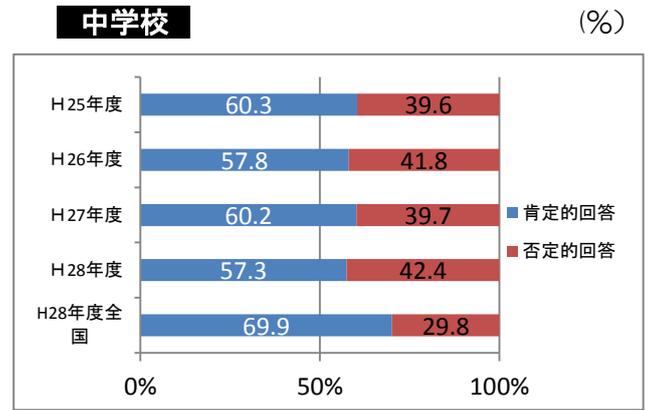
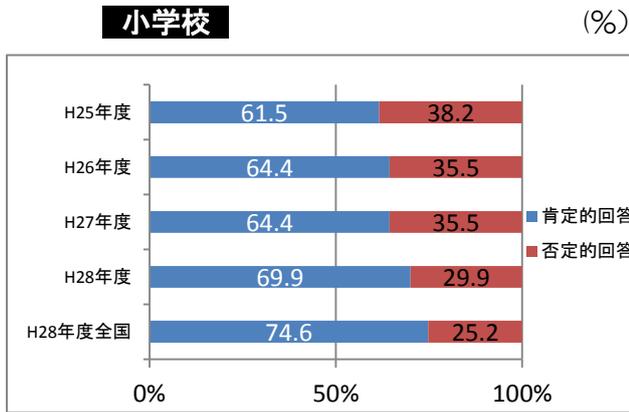


1.当てはまる 2.どちらかといえば当てはまる 3.どちらかといえば当てはまらない 4.当てはまらない
とそれぞれ回答した児童生徒の平均正答率



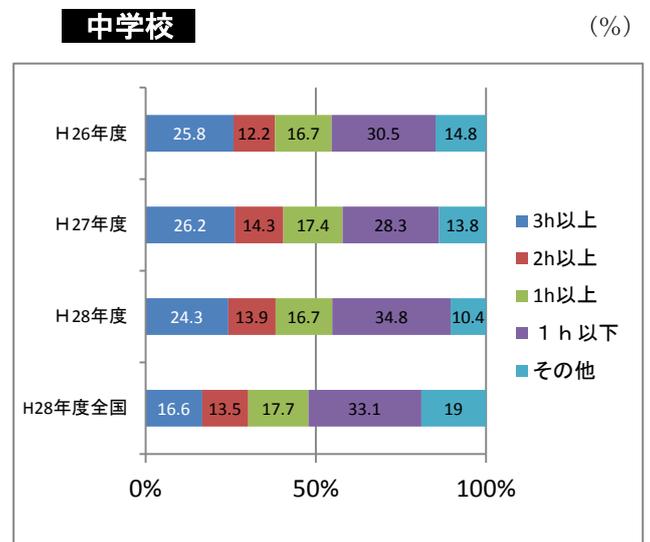
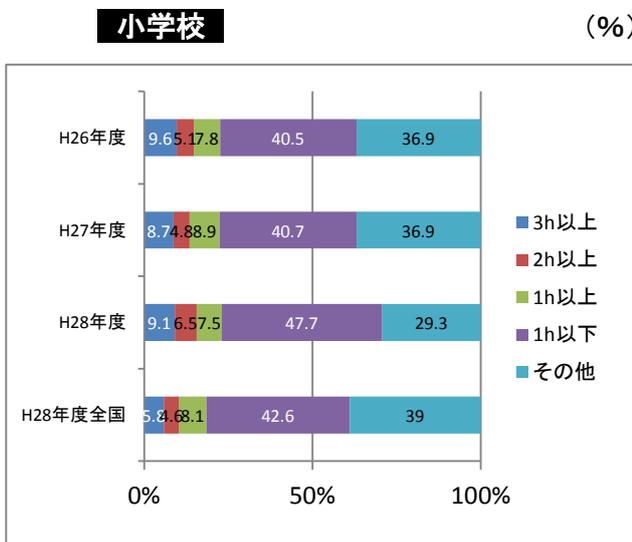
「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」と肯定的回答をした児童生徒の割合は、小学校では75%、中学校では69%です。小・中ともに全ての教科・区分で肯定的回答（1・2）の児童生徒の平均正答率は、否定的回答（3・4）をした児童生徒に比べて高くなっています。また、同じ質問項目で3年前（H25年度）の小学校6年生の時に肯定的回答をした子どもは、73.5%でしたが、3年経過した今年の中学3年生では、68.6%と約5ポイント低くなっています。このことから、中学生の家庭での会話が少なくなっていることがうかがえます。中学生になると、「親子で会話をするよりも勉強時間を確保するほうがよいのでは？」と考えがちですが、今回の調査結果からも、家庭内の会話は、子どもの学ぶ意欲につながるとうかがえます。また、小学校4～6年生は、語彙を増やしていく年齢期にあり、親子で会話の時間をもつことは、語彙や思考力を増すことにつながります。何よりも、会話（コミュニケーション）は、家族の信頼を増すことにつながります。子どもに「今日は学校でどんなことがあった？」など、学校での出来事について聞いてあげてほしいと思います。

4. 質問項目「読書は好きですか」



「読書は好きですか」という質問に対して肯定的な児童生徒ほど、各科目の得点が高い傾向が見られました。また「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）の児童生徒質問紙で、「全くしない」と回答した小学生は3割、中学生は5割いました。「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の児童生徒質問紙で、小学生の4割、中学生の7割の子どもたちが「ほとんど、全く行かない」と回答しました。読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。今後も、学校、家庭、地域における子どもの読書活動の推進にむけて取り組んでいきます。

5. 質問項目「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



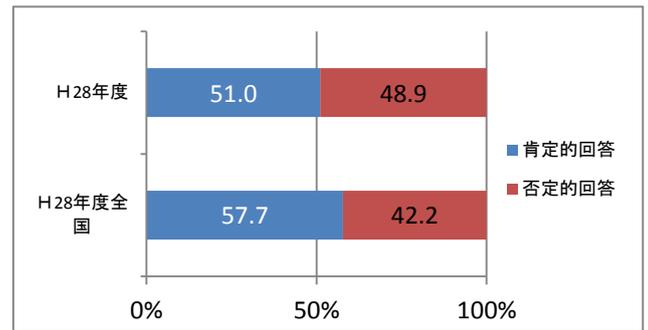
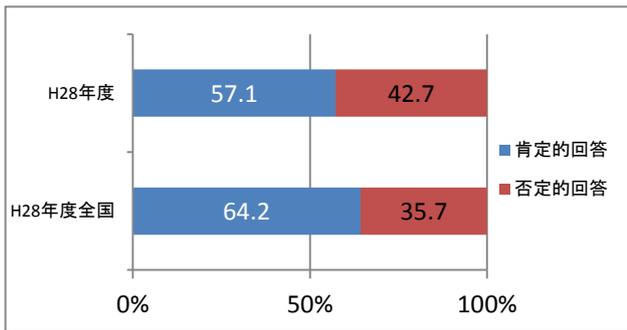
【家庭生活・家庭での過ごし方】

普段（月～金曜日）、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする児童生徒の割合を経年比較しました。小・中ともに、1時間以下の子どもの割合が増加しています。反対に3時間以上の子どもの割合は減少傾向にあります。依然、小学校では、1割弱の子どもが、中学校では、2割の子どもが、一日当たり3時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを行っている」と回答し全国と比較しても高くなっています。今後も引き続き、家庭での過ごし方について、家庭学習ノートや自学自習のスタンダードを作成し、学校・家庭で連携して取り組んでいきます。

6. 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況

- (1) 質問項目「前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」

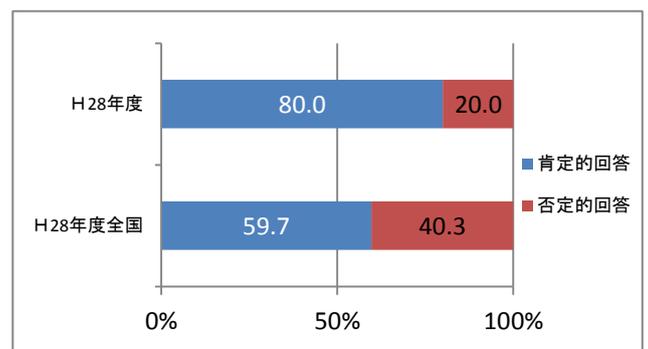
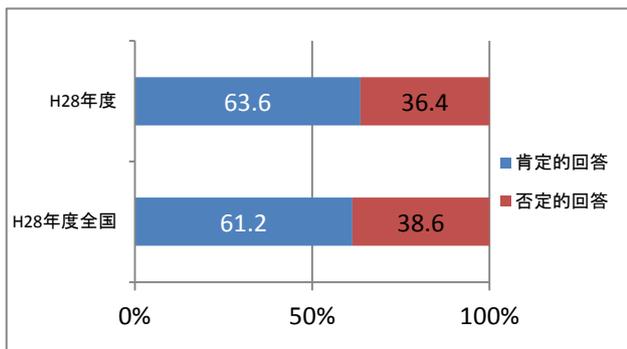
① **小学校** (%) **中学校** (%)



「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した子どもは、グラフ①では、小学校6割弱に、中学校では5割強に留まり、そのような取組ができていないという児童生徒が4割弱～5割存在していることがわかります。次に、対になる学校質問紙をみると以下のようになっています。

- (2) 学校質問項目「児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」

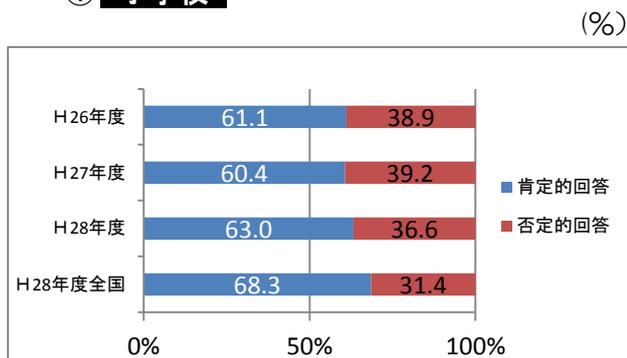
② **小学校** (%) **中学校** (%)



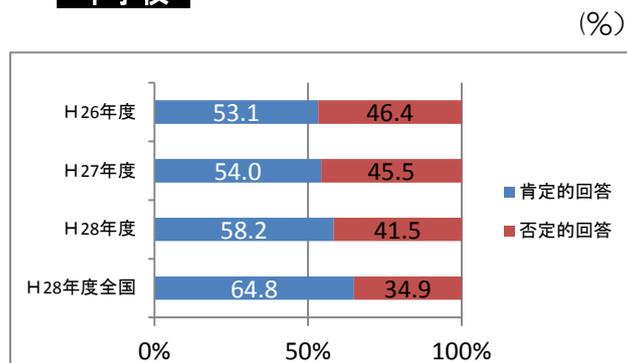
学校が「児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う」と肯定的回答が小学校では6割、中学校では8割ありました。対になる児童生徒質問紙の回答状況（グラフ①）と学校質問紙（グラフ②）を比較してみると、学校のとらえと子どもの回答状況に違いがあることがわかります。学校のとらえと子どもの回答状況の違いの背景を探るとともに、これからも、授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して取り組んでいきます。

- (3) 質問項目「学級やグループでの話し合いなどの活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

① 小学校



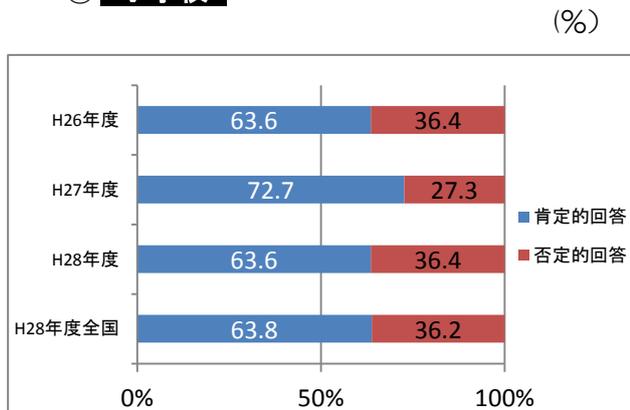
中学校



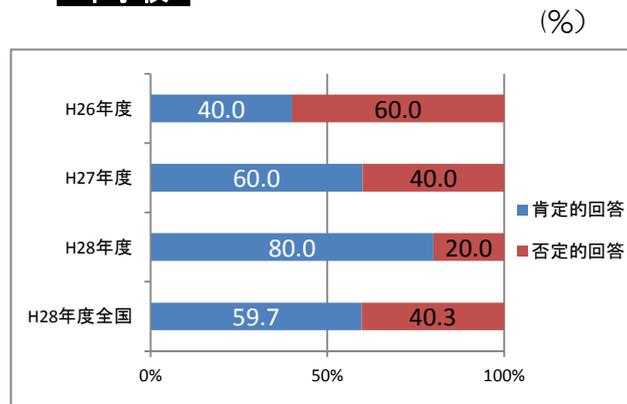
「学級やグループでの話し合いなどの活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた」と回答した子どもは、小・中ともに、6割前後に留まり、そのような取組ができていないという児童生徒が4割程度存在しています。次に、対になる学校質問紙をみると以下のようになっています。

- (4) 学校質問項目「学級やグループでの話し合いなどの活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」

② 小学校



中学校

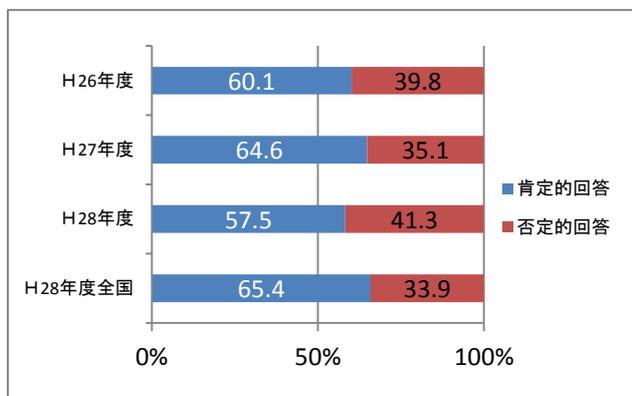


学校の回答と、対になる児童生徒質問紙の回答状況を比較してみると、学校が「学級やグループでの話し合いなどの活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答していても、そうとらえていない生徒(中学校)が一定の割合で存在しています。学校のとらえと子どもの回答状況の違いの背景を探るとともに、これからも、主体的・協働的な学習活動の中で、子どもが自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう取り組んでいきます。

- (5) 質問項目「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

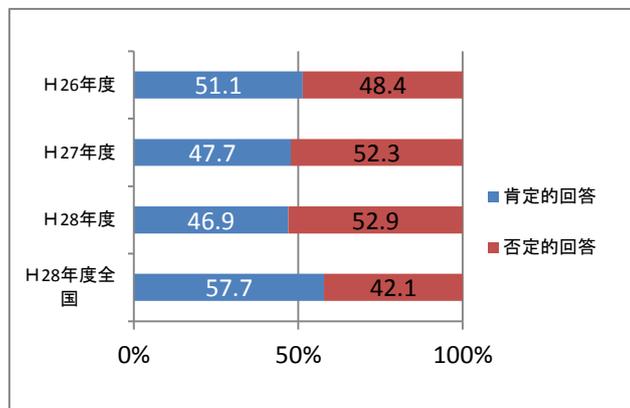
小学校

(%)



中学校

(%)



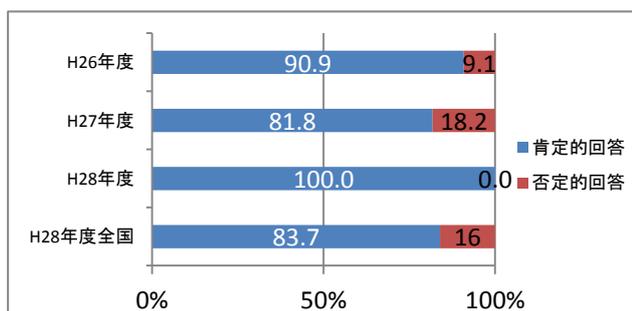
「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した子どもは、小学校6割弱、中学校5割弱に留まり、そのような取組ができていないという児童生徒が4割～5割存在しています。

次に、対になる学校質問紙をみると以下のようになっています。

- (6) 学校質問項目「前年度までに総合的な学習の時間において課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか」

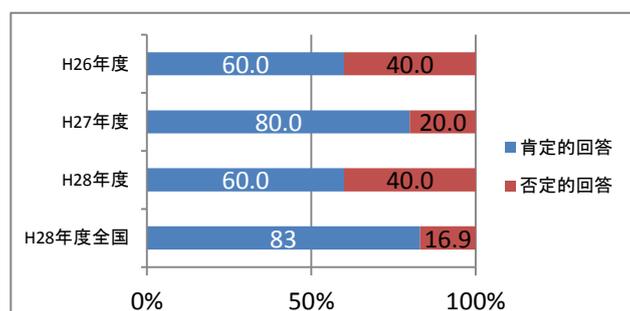
小学校

(%)



中学校

(%)



学校の回答と、対になる児童生徒質問紙の回答状況を比較してみると、学校が「前年度まで総合的な学習の時間において課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした」と回答していても、そうとらえていない児童生徒が小学校では4割強、中学校では1割強存在しています。学校のとらえと子どもの回答状況の違いの背景を探るとともに、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する探究的な学びに取り組んでいきます。

小学校児童質問紙より

☆昨年に比べて1ポイント以上アップしたもの

★昨年に比べて1ポイント以上ダウンしたもの

1 全国と同じ、又は1ポイント以上高い肯定的回答の質問項目

- 家で学校の宿題をしている (+1ポイント)
- 学校で友だちに会うのは楽しい (全国と同じ)
- ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある (全国と同じ)

2 全国より5ポイント以上低い肯定的回答の質問項目

- 学校のきまりを守っている (-10ポイント) ☆
- 家で学校の授業の復習をしている (-9ポイント) ★
- 人が困っているときは、進んで助ける (-8ポイント)

中学校生徒質問紙より

☆昨年に比べて1ポイント以上アップしたもの

★昨年に比べて1ポイント以上ダウンしたもの

1 全国と同じ、又は1ポイント以上高い肯定的回答の質問項目

- 人の役に立つ人間になりたい (+4ポイント) ☆
- ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある (+1ポイント) ★
- いじめは、どんな理由があってもいけない (+1ポイント) ☆

2 全国より5ポイント以上低い肯定的回答の質問項目

- 学級会などの時間に友だち同士で話し合っ 学級のきまりなどを決めている (-18ポイント) ☆
- 自分の考えを発表する機会が与えられている (-13ポイント) ☆
- 自分には、よいところがあると思う (-7ポイント)

IV 今後に向けて

今回の分析結果を、学校・家庭・教育委員会で共有するとともに、子どもたちが学ぶ本質的な意義や強みを問い直し「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点からの授業づくりに向けて取り組んで参ります。

具体的には、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって学び続けるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業改善の視点を大切にします。

まず、学校では、学習スタンダードに基づいた授業づくり、自学ノートの取組みと検証、学習評価等を生かした授業づくり、校内研究に向けた取組み等を組織的に推進します。

次に、学校での取組みの質を深めるために、全教職員が1つ1つの取組みを「やり抜く」ことを意識していきます。

そして、今回の児童生徒質問紙と学校質問紙から見える子どもたちと学校のとらえ方の違いがどこから生まれているのか、その背景を探るとともに自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」を大切にします。

今回、児童生徒質問紙より、「全国と同じ、又は1ポイント以上高い項目」「全国より5ポイント以上低い項目」をそれぞれ3つずつピックアップしました。

「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と回答した児童生徒の割合は、他の質問項目と比べて高くなっています。

家庭での過ごし方については、継続課題がみられる項目があるものの、改善傾向に向かっている項目も見受けられます。

今後も、本市では、学校・家庭・地域で子どもの学びをしっかりと支えていけるよう取り組んで参りたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。